

主に心を合わせる

1月のルナホールでのいやし礼拝で、私は「全体」の係になっていました。全体というのは、礼拝コーディネーターのような係です。前日の土曜日に赤島麻貴子さん(スタッフ)から、「103号室(事務局の1室)のドアに貼ってある、後片づけのメンバー表を持ってきてね」と言われていました。

赤島さんは、自分もその表のコピーを持って行くのだけど、全体の係の私にも一応声をかけておく方が安心だと思ったようです。それで私も「忘れなかったら、持って行くね」と軽く受けていました。

前日の土曜日はいろいろな用事で忙しくしていたので、私はその表を持って行くことをすっかり忘れていました。「私が持って行くのは予備」という安心感もあり、気が抜けてしまっていたのです。夜になり、他のことを考えながら103の廊下を通り過ぎようとした時、赤島さんの「持ってきてね」という声が聞こえたのです。私は今声をかけられたような自然さで、その表を剥がしてカバンに入れました。「私に期待していなかったでしょ。でも忘れなかった。ちゃんと持ってきたからね」と、少し自慢気でした。

日曜日の朝8時40分頃、赤島さんからメールが入っていたのですが、メールに気づきませんでした。気がついたのはルナホールに着いてからです。それで赤島さんに「メールをもらったようだけど、何か用だった？」と言うと、「あの表持ってきた？」と聞かれました。彼女はその表を持ったはずなのに、朝どこを探しても見つからないので焦っていたのだそうです。私はちょっと得意気に「持ってきたよ」と言うと、「よかったぁ。メールをしても返事がないから、持ってきてくれますようにと必死で祈っていたの」と言います。

メールをもらった時間は、私はバスの中です。その時、彼女がどんなに必死に祈っていても、本来ならもう手遅れなのです。ところが私はそれを聞いて、今朝の彼女の祈りが、前日の夜、私のところに届いていたと思ったのです。それで「今朝、赤マキ(赤島さん)が祈った祈りは、昨日の夜、私のところに届いていたよ。だから持って来れたんだよ」と言いました。

そう彼女に言いながら、私は本当にそうなのだと思信していました。私は気のつくタイプではありません。むしろ気が利かない上に、忘れ物をするに関しては自信があります。人にフォローしてもらうことはあっても、自分がフォローすることはほとんどありません。思い出すと、103号室の廊下を通り過ぎようとした時、「持ってきてね」という彼女の声が聞こえたのは、翌日の彼女の祈りが、時間を越えて前日の私に届いたとしか言いようがないのです。

今さらですが、祈りとはなんとすごいことだろうかと思います。今祈る祈りが過去に届く。そしてさらに未来にも届く。私たちは祈りによって、過去にも未来にも遣わされているのです。

さらにいやし礼拝では美津子さんが、心を合わせて祈ることを語っておられました。スタッフの水谷賀津子さんを釣りに誘ったら、水谷さんは足が痛くて断った。それを聞いた美津子さんは、祈るより先に「かわいそうに」と思った。そのことを聞いた水谷さんは、美津子さんが「かわいそうに」と思ったその時に、いやされていたというのです(1月27日付週報「受け取ってくださいね」参照)。

もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。(マタイ 18:19)

このみことばはふたりの人が同じ思いで願い事を願うことが、心を合わせることだと受け取ることができます。地上で心を合わせて祈るということは、一つのことに思いを合わせて共に祈ることもあるでしょうが、さらに今回美津子さんを通して、心を合わせるのはお互いではなく、主に心を合わせることだと語られたように思います。美津子さんは水谷さんを「かわいそうに」と思い、水谷さんは美津子さんがかわいそうにと思ったことが、祈りとなっていたと思ったその時に、いやされてしまったのです。思った時に、実はすでに祈りは届いていた。

赤島さんが必死に祈ったことと、美津子さんが水谷さんのことを「かわいそうに」と思ったことは、どちらも主に向かって心を合わせることだったのだと思います。地上の私が主に心を合わせるなら、主はその祈りを聞いて下さる。そしてその祈りは、祈った瞬間にも、また時を越えて過去にも未来にも届く。主の十字架が完成しているからです。

そして、主に心を合わせるというのは、主の願いを受け取り、主の願いを祈ることだと思っています。主が今、祈ってほしいと願われる祈りがある。その祈りをいつも受け取ってほしいと思います。

今、主が私たちに心を合わせて祈ってほしいと願われている祈りがあります。2月、本部事務局では特別に地震のことと地のいやしのために、午後3時に共に集まって祈りとさんびの時を持っています。15分ほどの短い祈りとさんびの時ですが、主が祈って下さっている祈りに心を合わせる時、主が私たちの祈りに心を合わせ、その願いを聞いて下さることを知るので。

主よ、この地をいやし、守って下さい。この地に主の願いが成りますように。